



防錆剤の分析

防錆剤製品開発のための調査や残留成分試験をお引き受けいたします。

防錆剤分析の必要性

金属はその種類によってはさびの発生により外観を損なったり、本来の機能を損なったりするおそれがあるため防錆処理を施すことがしばしばあります。防錆処理に用いられる防錆剤(さび止め)には、各種効果の発現を目的として添加剤が加えられており、これらの評価を目的に成分分析が実施されています。しかし主成分や添加剤成分にはベンゼン等法規制対象物質となるものも含まれており、これら成分の残留有無の確認を目的とした分析も必要となります。

[さび止め材料の種類]

区分	種類
さび止め油	指紋除去形、溶剤希釈形、ペトロラタム形、潤滑油形、気化性
さび止め剤	気化性、水溶性、気化性水溶性
さび止め紙・フィルム	気化性、一般
その他	可溶性プラスチック(塗装形、熱間浸せき形)、乾燥剤、脱酸素剤

※参考: JIS Z 0303

分析事例

- ガスクロマトグラフ/質量分析計(GC/MS)や液体クロマトグラフ/タンデム質量分析計(LC/MS/MS)等の微量有機物分析をはじめとして、フーリエ変換赤外分光分析(FT-IR)による含有官能基の推定等の有機構造解析をお引き受けいたします。

GC/MSによる定性分析

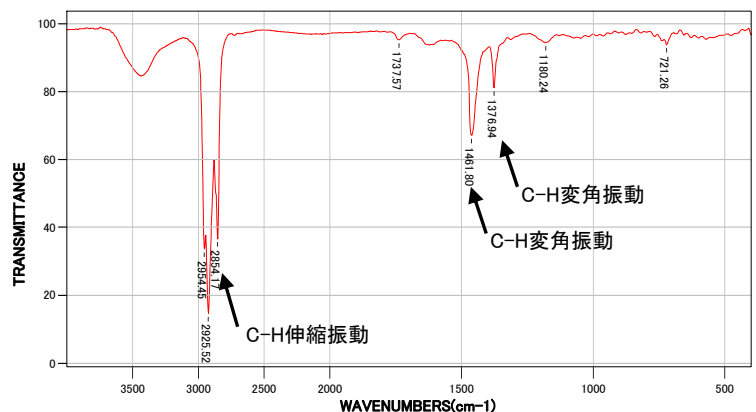
- 含有成分の内、揮発性の高い有機化合物についてはガスクロマトグラフ/質量分析計(GC/MS)により定性分析が可能です。



GC/MS分析装置

FT-IRによる防錆油の分析

- フーリエ変換赤外分光分析により防錆油の含有官能基構造の調査(酸化劣化評価等)が可能です。



炭化水素系防錆油のFT-IRスペクトル



JFE テクノリサーチ 株式会社

<http://www.jfe-tec.co.jp>

0120-643-777

Copyright ©2014 JFE Techno-Research Corporation. All Rights Reserved.
本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい。